③調べてみよう　戦争と平和

（小学校低学年～中学校）

自分の住んでいる近くに「戦争の跡」がありませんか。昔はどんなところで、今はどうなっているのでしょう。おうちの人や地域の大人の人にたずねてみましょう。

＊ここに書かれている場所は、現在立ち入りができないところもあります。必ず大人の人といっしょに、確かめて行くようにしましょう。（特に旧地下施設）

●機雷戦死者の碑（輪島市門前町吉浦）

1944年、日本軍の金属回収命令（武器等をつくるため、金属を集める命令）で、「ブイ（海に浮かべた目印）である」との言葉を信じて作業をしていた物が、機雷（水中や水上に浮かんだばく弾）だったため、爆発をおこして地区の人々13人が死亡しました。

●満蒙開拓団慰霊碑（珠洲市馬緤町）

1940年から、400人以上の人たちが満州（今の中国・北方）に移り住みました。敗戦後、日本へ帰ることは難しく、たくさんの人々が亡くなりました。

●富来港と増穂海岸（羽咋郡志賀町（旧富来町））

1945年、日本軍の食料輸送船2隻がアメリカ軍戦艦に追われ、富来港に逃げ込む直前に撃沈されました。増穂海岸には、遺体と多量の積み荷が流れ着きました。

●第二能登丸遭難地点（七尾湾・能登島寺島沖）

戦争が終わってすぐ、七尾港から能登島に行き、次の港へ向かうとちゅうの第二能登丸が、アメリカ軍の機雷にふれて沈没し、子どもを含む乗客28人が亡くなりました。

●相馬飛行場跡（七尾市・田鶴浜）

戦争の終わりころ、本土決戦に備えるため、小松海軍飛行場の補助飛行場として建設され、1945年8月14日に完成しましたが、一度も使用されることなく8月15日敗戦になり、取りこわされました。板をしいた当時の滑走路は、現在水田になっています。

●一衣帯水の碑（七尾市・七尾港）

戦争の終わりごろ、中国から連れてこられた人たちが大変きびしい荷物運びの労働をさせられました。戦争が終わって中国に帰国するまでに15人が亡くなり、たくさんの人が病気になりました。1977年に日本と中国の友好を願って「一衣帯水」（せまい日本海をへだてて、となりあっていること）の碑が建てられました。

●内灘演習場跡（河北郡内灘町）

1953年、日本にいるアメリカ軍の演習場（砲弾試射場）として、延長10㎞の柵・砲座・宿舎・道路などが建設されました。砲弾の試射も始められましたが、全国的な反対運動により1957年に内灘町に返され、演習場はなくなりました。資料館（風と砂の館）には当時の写真等が展示されています。

●尹奉吉（ユン・ボンギル）義士殉国記念碑（金沢市野田山）

日本の植民地支配に反対し、韓国独立運動を行っていた尹奉吉が処刑され、墓標もないまま密かにうめられた場所。尹は祖国の英雄として韓国の教科書にも紹介されています。韓国の人々の願いが実り、1992年に野田山に石碑が建てられました。

●坂尻陸軍地下工場跡（白山市坂尻町）

戦争の終わりころ、陸軍航空兵器廠のエンジン工場を疎開（空襲のある都会から避難させること）させるために、地下に建設されました。学生や朝鮮人労働者が多数働かされました。戦争が終わり、使われることはありませんでした。

●額谷地下工場跡（金沢市額谷）

ここは江戸時代から、かまど・七輪などの材料として使う額谷石を切り出す石切場でした。1945年、そのほら穴を地下工場として作りかえ、三菱飛行機会社が日本軍から注文を受けて、飛行機の部品を作ることになっていましたが、生産が始まる直前に戦争が終わりました。工場建設には、たくさんの朝鮮人が働かされました。

●旧海軍施設跡（小松市浮柳町）

小松海軍飛行場に近く、戦争の終わりごろ海軍の施設（弾薬庫ともいわれる）として建設され使われていました。カマボコ型の分厚いコンクリート製で、取りこわすことも難しいため、現在も地元の浮柳町が倉庫として使用しています。

●中島飛行機地下工場跡（小松市遊泉寺）

もともとは石切場で、戦争の終わりころに海軍が内部を改装し（多数の朝鮮人が働かされた）、中島飛行機の工場が疎開してきて飛行機の部品を作っていました。戦争が終わるまでに作られた完成品は少なかったそうです。

●旧海軍病院地下壕（加賀市山中温泉・山中温泉医療センター付近）

旧舞鶴海軍要港部（京都府）の温泉病院として、山中海軍病院が設置されました。地下壕は戦争の状況悪化にともなって掘られました。防空壕と地下病院を兼ねた施設で、地下水を取り入れる施設や貯水槽も残っていました。建設時は多くの朝鮮人労働者が働いていました。

2002年8月発行